

2009年9月23日

## ILO高位使節団へのTMPCWAの報告書（事件番号 No. 2252 および 2652）

TMPCWAは、これら2つの事件が密接不可分のものであるため、両事件に関して一括の報告書をここに提出する次第です。

### 事 実

#### 法的事件

最高裁が、違法解雇および違法ストライキに関してトヨタ経営陣を勝訴させる最終判決を去る2008年4月に発した後も、組合員たちはTMPCWAを離れることはありませんでした。およそ100名のTMPCWA組合員が工場内部で今現在働いており、またおよそ103名の違法解雇を受けた組合員たちがトヨタからの離職金支払を今もなお受け入れていません。これらすべての組合員たちがTMPCWAとIMFの行動に活発に参加しています。元々あったのに、最高裁判決では、解雇労働者に対する離職金を削除してしまったのです。しかしながら、トヨタは、何度も何度も携帯電話を使ってひそかにTMPCWAの被解雇組合員たちに接触をはかり、資金援助の偽名のもとにトヨタの新提案を受け入れるよう被解雇組合員たちを説得してきたのです。（ロメル・トレンティノ氏の宣誓供述書をご参照下さい。）

#### 承認選挙に関して

最高裁は、TMPCWAの控訴に対する2008年4月の高裁の最後の判決を支持する判決を既に発しています。TMPCWAは再検討申立を提出しており、最高裁は被上告人にコメントを提出するよう要求する決定を発しています。（添付の最高裁の決定およびTMPCWAの応諾書をご参照下さい。）

訳注：最高裁への上告（裁量上告）は今年4月16日に提出受理されており、それ以来棄却判決が出たとか再検討申立を提出したという情報はもらっていないし、この高位使節団への報告書に添付されている最高裁の決定書にも「裁量上告を検討した結果、被上告人（すなわちトヨタとDOLE）からコメントを徴する」と述べているのであるから、このエド君の記述は少し奇妙なので、目下エド君に質問中。じつは、この箇所はエド君の原稿をチェックした際無かったので追加しておくよう助言しあとどう書くかはエド君に任せておいたところです。

#### 国家斡旋調停委員会（NCMB）における事件

TMPCWAは、打ち続くトヨタの侵害に対して、2006年以来いくつかの訴えをNC

MBに提出してきましたが、NCMBは、トヨタがNCMBの設定した聴き取り調査会をすべて無視し続けているにもかかわらず、地方局レベルでの事件の手續進行を凍結してしまっています。(今年に入って行われた聴き取り調査会の通知書の議事録をご参照下さい。)

### **刑事事件に関して**

首都事実審裁判所(MTC)[訳注：マニラ地裁と考えればよい。]は、トヨタがTMP CWAの被解雇組合員に対して告訴告発した刑事事件の公判を実施し続けています。前回最後の公判(2009年8月19日)で裁判所は今年末までに2回の公判を続けて設定しました。

刑事事件で当初被告人にされた26名の組合員のうち、現在9名の組合員が今なおトヨタからの離職金の支払を受け入れていません。7名の組合員の上司である監督職の告訴告発は、ILOにも報告してあるとおり既に撤回されましたが、一方で他の9名は既に、2007年10月と2008年の最高裁判決の前後に、離職金の支払を受け入れてしまっています。

刑事事件の被告人とされたTMP CWAの違法解雇された組合員のうち、これらの既にトヨタからの離職金の支払を受け入れてしまったものたちは、最早や裁判所からもトヨタからも公判への出頭を強制されていません。残っている9名の組合員は、依然として、公判に出頭しなければ逮捕状を発するぞという脅しを受けています。

### **軍人および警察官の介入**

これまでILOには報告していませんでしたが、トヨタの何人かの職員は軍の成員です。トヨタの前顧問であったのは、フィリピン士官学校(PMA)出身の退役将軍です。彼の名前はアンヘル・カナピで、現在彼はトヨタの1つの財団の新顧問を務めています。カナピ将軍の後にはアロヨ政府のもとで前国防長官であったディオニシオ・サンチャゴ将軍が就任しており、同時に彼はフィリピン麻薬取締庁(PDEA)の長官も務めています。

トヨタは、TMP CWAの委員長エド・クベロをフィリピン共産党の党首につながっているというピラを配布して、TMP CWAの指導者たちを悪者扱いしています。このようなやり方は、TMP CWAを支持したり加入したりしないようトヨタの労働者を脅し、TMP CWAの指導者たちを孤立させるという、軍の戦略の一環になっているものです。(添付のLabor Union 101, Matuto sa Positibong Gawainと題するピラおよびTMP CWAのピラをご参照下さい。)

2008年1月のある時に設置されて以来、およそ15名の第202歩兵統一者旅団の軍人が、1隊を形成して存在していました。彼らのうちある者たちはTMP CWAの組合事

務所の近くに置かれた分遣隊に常駐し、またある者たちはトヨタの工場内部に常駐していたのです。現在、この軍は、フィリピン政府が高位使節団を受入れた後かつ2009年4月下旬のILO週間の設定後に、2009年の5月のいつかにいなくなっていました。しかしながら、今もなお内部で働いているわが組合員の報告によれば、第202歩兵旅団の構成員である4名がトップレベルの経営幹部のボディガードに成っているのです。(ウェネシト・ウアヘル氏の宣誓供述書をご参照下さい。)

同じ月に、サンタロサ市サンタクルス街区の地域指導者でありオルガナイザーであったサビーナ・“カ・サベング”・アリオラが、バイクに乗った銃撃犯によって射殺されたのです。“カ・サベング”は、前記の軍の撤去を声を大にして訴え、また都市貧困民のための闘いを強く訴えている地域組織のメンバーたちと共に、トラックに乗っているところでした。彼女はその街区に居住する貧しい住民を助ける事業家でした。狙撃は、同じ2009年4月のいつかに上記の軍隊(分遣隊)が去っていった数日後に起きました。(KMUのホームページをご参照下さい。)

さらに、軍が去った後も、トヨタはおよそ7台のCCTVカメラを生産ラインに設置して内部組合員たちの活動を監視し続けているのです。この監視ビデオカメラはTMP CWAの指導者たちと内部組合員たちの活動を制約しています。彼らは会社から見張られていることを意識的に承知しているからです。(再度ウェネシト・ウアヘル氏の宣誓供述書をご参照下さい。)

加えて、TMP CWAは、第202旅団の軍人がトヨタの構内で使用している車両の写真を撮っています。これは去る2009年3月にロウエル・デルガド氏によって撮影されたものです。(添付の写真とロウエル・デルガド氏の宣誓供述書をご参照下さい。)

### **警察の介入**

去る2009年3月16日、TMP CWAは、トヨタ・サンタロサ工場前で抗議行動を展開しました。トヨタの物流管理責任者(LCO)がこの行動の一部始終をビデオ撮影していました。翌日、銃を帯びた約20名の警察官がそのビデオを見るためにトヨタに招かれ、そしてまた生産ラインの工場視察を案内されたのです。内部で働いているTMP CWAの組合員の一人が、この工場視察の様子をビデオにおさめました。(このビデオとロウエル・デルガド氏の宣誓供述書をご参照下さい。)

### **TMP CWAの内部労働者と違法解雇をされた組合員たちに対するトヨタのなおも続く嫌がらせと組合潰し**

去る2009年8月、今もなお工場内部で働いているTMP CWAの指導者の一人が、ト

ヨタから監督署への昇進という利益誘導で脱落させられようとしていました。このTMP CWAの指導者がこの昇進を受入れることを拒否すると、経営陣は直ちに彼の名前すなわちジェリー・マンドラス氏を、彼を誹謗中傷するビラの中に挙げて、彼は他の活動的な組合員らと共に会社を辞めるべきだと唱えたのです。このことは、トヨタがある労働者たちに対しては力づくで潰そうと図る一方で、利益誘導によってでも組合潰しを謀ること、しかしながらこれがうまく行かなかったとみると、一転して「会社から出て行け！」とわめいてTMP CWAの組合たちに襲いかかることを示しています。このようなビラを発行している組織はXXXです。(ジェリー・マンドラス氏の宣誓供述書とトヨタのビラをご参照下さい。)

同じ月、トヨタはまたもや、何台かのCCTVカメラ(監視装置)を、TMP CWAの組合員が集中している生産ラインに設置しました。これは工場内部でのTMP CWAの活動を制約しています。(添付のウェネシト・ウアヘル氏の宣誓供述書をご参照下さい。)

先月、トヨタの経営陣は、TMP CWAの違法解雇者の一人であるロメル・トレンティノ氏に電話をかけてきて、TMP CWAの組合員であることとTMP CWAへの支持を止めることとの引き換えである額の金銭を提示しました。トレンティノ氏は経営陣からの電話の後でTMP CWAに通報してきました。(詳細が完全に記載されているトレンティノ氏の宣誓供述書をご参照下さい。)

**以上の報告はすべて真実であることを誓います。**

TMP CWA委員長 エド・クベロ